

令和5年度 大王谷学園 学校関係者評価書

1 学校経営理念

- 4つの幸せ
- 児童生徒の幸せ この学校に行って良かった。
- 保護者の幸せ この学校に行かせて良かった。
- 学園の幸せ この学校の卒業生がいて良かった。
- 職員の幸せ この学校で働けて良かった。

「児童生徒の幸せ」「保護者の幸せ」「学園の幸せ」「職員の幸せ」の「4つの幸せ」を理念に掲げ、日向市の「三位一体の教育」に取り組み、「自立」「貢献」を柱とした教育活動を推進し、社会人の3つの資質(ルール・マネー・エチケット)を身につけた児童生徒を育成する。

2 学校教育目標

『一人前の社会人・職業人、地域人、家庭人の育成』

3 目指す児童・生徒像

「自立・貢献」できる児童生徒

4 重点項目と主な取組

重点項目	主な取組
(1) 楽しい学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒のがんばりを認め、称賛する取組 ○ 児童生徒の活動の自主的運営への支援 ○ 諸行事の企画運営への参画
(2) 学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かる授業と指導の工夫 ○ はげまし隊や花まる先生の活用 ○ 家庭学習の充実
(3) あいさつ・返事	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会・生徒会活動の充実 ○ 家庭・地域との共通理解・共通実践 ○ 常時指導の充実
(4) 自立・貢献	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳教育の充実 ○ 当番・係活動や委員会活動の充実 ○ 家庭・地域との連携
(5) キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ ねらいや学びのつながりを意識した教育活動の展開 ○ 地域人材の活用 ○ 体験活動の充実
(6) コミュニティ・スクール推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の充実 ○ 児童生徒の地域での行事・活動への参加啓発 ○ 学校での活動等の情報発信
(7) 教職員の意識	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「大王谷学園グランドデザイン」の7つの重点事項を意識した教育活動の展開 ○ 「当事者意識」と「相手意識」をもった業務遂行

5 評価【4・・・達成 3・・・おおむね達成 2・・・少し改善を要する 1・・・大いに改善を要する】

重点項目	学校の自己評価		学校運営協議会委員	
	結果分析及び対応策等	評価	評価	コメント
(1) 楽しい学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒も保護者も、楽しい学校になっていると感じているようだ。参観日や学校行事等がコロナ禍前に少しずつ戻ってきて、学校生活への充実感が湧き出ているのだろうと考える。 ○ 児童生徒への称賛に関しては、児童生徒・職員どちらも、アンケート結果では肯定的な回答が多く、児童生徒のがんばりやよい行いに対して、称賛できていることがうかがえる。今後も、意識的に機会を捉えて称賛していきたい。 	3.5	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍においては、学校行事の中止や延期が児童に影響を与えたと思う。 ・ with コロナにおいては、工夫をしながら実施するとともに、児童目線での新しい行事を提案・実施などを検討してほしい。 ・ 子どもたちの笑顔が生き生きとしていてとても良い。
(2) 学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学力向上」に関わる項目においては、児童生徒は「わかる授業」に実感があるようだが、教師側は児童生徒の諸学力検査等の結果から、手立ての不足を真摯に受け止めている。 ○ 全国学力調査・県学力調査等の各調査の分析を行い、児童生徒の課題や学年ごとの系統性をもった指導方法の工夫改善に取り組むことができた。 ○ はげまし隊については、初等部においては、「春の生きもの」「町たんけん」「かけざん」の学習において支援をしていただいた。算数科における花まる先生についても活用でき学習の定着に効果が出ている。 ○ 家庭学習については、保護者の意向も踏まえながら、学校・学級としての「家庭学習の在り方」について方針を固め取り組んでいくことが必要である。 ○ 1人1台のタブレット端末の有効性について究明し広報していかなければならないと考える。 	3.3	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力の育成においては、学校の授業だけでなく家庭での学習が必要不可欠であり宿題の在り方がいろいろと言われる中、状況を踏まえた対応が求められる。 ・ 1人1台のパソコンが与えられた中、どのような効果があったのか分かる範囲で共有をしてほしい。 ・ ただ今進行中につき、今後数年で目に見える変化を期待します。 ・ 1年生との交流会を兼ねた授業を見せていただき、一人一人の児童が集中して学習に取り組んでいると感じました。
(3) あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「あいさつ・返事」の項目については、児童生徒は自分自身、行っているようだが、保護者・教師共にまだまだ行っていないと感じている。 ○ あいさつについては、学校での常時指導を充実させるだけでなく、家庭・地域とも 	3.4	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年も初等部より中等部の生徒のほうが自発的にあいさつを行っている感じがする。 ・ PTA や育成会と連携してあいさつ運動を定期的に計画するなど、保護者を巻き込んで取り組んでいく

返 事	<p>連携を図りながら、力を入れていく必要がある。</p> <p>○ あいさつ運動の取組について、PTA や育成会にも投げかけ推進を図っていきたい。</p>		<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 少数の子どもでも登下校以外であいさつをされると、とても気持ち良いです。(他行よりもあいさつする子どもが多い感じがする。) • 小学生より中学生のほうがきちんとあいさつができています。声が大きい小さいはありますが、良くできていると思います。 • 登校-下校時間帯だと挨拶が返ってくることも多いですが、個人で行き帰りしている場面で声をかけるとはすかしさもあってか、声が出ないことも多いように感じます。
(4) 自 立 ・ 貢 献	<p>○ 「自立・貢献」の「自立」の項目については、自宅での児童生徒自身はできているようだが、保護者としては、まだまだと感じているようである。「貢献」については、学校やお家で決められたことは実践できているようだが、自主的な貢献については取り組めていないようである。また、お家でのお手伝いなども保護者にとっては、まだまだ不足と感じているようである。</p> <p>○ 「貢献」についてのアンケート結果から、学校やクラス、地域のために役立つことが進んでできていないことが分かる。今後は、学校や地域に対する「貢献」について、働きかけが必要である。</p>	3.2	3.0 <ul style="list-style-type: none"> • 学力と同じで学校だけでなく家庭において子供と話し合う（伝え合う）ことが大切と感じる。 • 自分で部屋をきれいに片付けるその延長に、例えば通学路のゴミを自ら拾うなど成長につながる教育を家庭で種まきしていきたい。 • 5年生になると、言葉遣いや他人への思いやる行動が出ているように思います。 • 地域（区行事等）での活動が減少している中、子どもたちが行動（つながりを求めて）をおこしてくれる事を期待しています。 • 地域における貢献としては、部活動等により少ないと感じている。（しょうがないことではあるか）
(5) キ ャ リ ア 教 育	<p>○ 初等部も中等部も、諸学習活動において、外部人材の活用を実施し、児童生徒にとっては、地域の方から実際に話を聞くことで、より身近に、かつ将来に向けた学びを感じとったのではないかと考える。</p> <p>○ 総合的な学習の時間や学級活動などの時間において、キャリア教育のねらいや学びのつながりを意識した教育活動を行うことができた。</p>	3.5	3.7 <ul style="list-style-type: none"> • 個人的には保護者を講師にした授業が良いと感じており、内容や回数や実施期間（年間）を考慮しながら、より良いものを検討していきたい。 • 子どもの夢が現実のものとなれば良いですね。 • 以前に比べるとキャリア教育はかなり進んでいると思う。 • 目標をもてる子どもが多ければ子ども同士でいろいろとチャレンジしてくれるのではと思います。

<p>(6) コ ミ ス ク ニ ー テ ル イ 推 進</p>	<p>○「地域への参画」という点については、進んで参加できていないと児童生徒も保護者も感じている。ようやく地域の行事等も行えるようになり、これから地域の良さに改めて触れながら地域貢献できる児童生徒を育成していきたい。</p> <p>○学校運営協議会を実施し、児童生徒の様子や学校行事等、情報交換したり、協議したりすることができた。</p>	<p>3.2</p>	<p>3.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニティスクールについて、分かりやすく児童や保護者に定期的に共有し理解を深めていってほしい。何かできるか何をすべきかを考えて行動にうつしていきたい。 • 学校運営協議会は、2回/学期は最低でも行ってほしいです。 • 区回覧の学校の様子の内容を多くして頂きたいです。(毎月)
<p>(7) 教 職 員 の 意 識</p>	<p>○大王谷学園として小中一貫を見通して、「大王谷学園ランドデザイン」を浸透化し、小中一貫教育の充実に努めなければならないと考える。</p> <p>○小中一貫教育のよさが発揮されるように、初等部と中等部で、さらに連携を図りながら教育活動を進めていく必要がある。</p>	<p>3.2</p>	<p>2.9</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 小中一貫の良さを実感できる行事などを増やして交流を活発にしていほしい。 • 小中一貫校がスタートして約15年になろうとしています。校長先生が変われば学校のイメージも変わりますが、一貫校としてのぶれない教育方針を明確にしてほしいです。 • 連携の成果が見えていない様な気がします。 • 小中一貫教育のよさが連携を図りながら地域にも見えてくると良いなと思います。